
日曜日はスコップ日和（未評価作品をスコップで掘る）

まめ太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

日曜日はスコップ日和（未評価作品をスコップで掘る）

【Nコード】

N1110X

【作者名】

まめ太

【あらすじ】

自分がお気に入りに入れたい作品は、最初からクライマックスだったり、色々と凄い設定が最初から語られたり、主人公が明るい口調で喋っていたりするような作品……以外、です。最近気付いたのさ。グダグダのエッセイを交えて、他作品を掘り起します。

第一回スコップ

『小説家になろう』というサイトで、作品を発表し始めてそろそろ……半年は経ってないのか。何ヶ月目だったかはよく解からないが、たぶん4ヶ月目くらいだろう、うん。

ところで皆さん、ランキング作品はお肌に合いますか？（笑）
わたしは合いません。

何がどう合わないのかは知りませんが、感性の違いでしょう、そういう事にしておけば幸せ。

では、本題。

ランキング合わないんで、自力で合いそうな作品を探そうとか思うんですがね、わたしだって書き手ですからして？ 他人の作品のそれも海のものとも山のものともつかないものを大量にね、読むのは苦行のレベルですよ。

ですがね、この苦行、自分の作品の為だと称してしまえば苦行でなくなるこの不思議。

けれど、なろう作品の紹介というのは、すでに先人ともいえるべき方がいらっしやるんで、二番煎じですわ。

同じ事をしたって面白くもなるともない。

メジャーな作品はそちらを当たってもらうとして、わたしが掘り進めるのは「未評価作品群」です。

ポイント0の作品から、これはと思うものを探してみたいと思います。

お気に入りが増えるといいなあ。

いきなりクワイマックスだったり、わあすごーいな設定説明が序盤から来る作品はすべてパスです。

てゆーか、わたしはそーゆーのがカユイのだ。徐々に引っ張って

って、盛り上がったからからの畳み掛けるSUGEEなら大喜びさ。
そういう作品「だけ」紹介していきたいと思います。
趣味の合う方、ニヤリ してくださると有り難や。(笑)

まず、一作目。

『海の都の少女』

書き溜めてから投下するタイプの作家さんのようで、エターじやないかとかヒヤヒヤしますが紹介。

ところどころ文章がおかしくて引つかかるのが残念なのだけど、現在三話、参考になるものがあります。エタらず続きを書いてほしいと思うところです。

女主人公、地の文で書くべきことをきちんとして踏まえて書いてます。キャラもいい。

台詞部分が秀逸です、すぐ登場人物に好感持てるようになった。
三話だけなので、どう転んでゆくのかは解からない。

同作者のエトルリア叙事詩もなかなか読み応えありげ。登場国家紹介は一見の価値あり。そうとう評価も高いので、海の〜も読んで欲しいところ。てゆーかよ、お前等、985人とかお気に入り登録してんのに、異世界ファンタじやなきや読まねーという姿勢アリアリでくそ笑たわ。史実か？史実の二文字が引つかかったんか？

これ書いてるうちにお気に入り入ったようで現在はpt0ではないです。

肝心のストーリー分類が。

史実を勉強されてるようで、時代考証とかを視野に入れて、地中海〜エジプト圏での冒険が期待されそうな出だしです。海洋冒険か陸地か、はたまた恋愛重視かはまだなんと。

二作目。

『落日を別つ人へ』

こんなにすぐに良作見つかるとは僥倖。

すーっと世界に入っただけです。なんでコレがポイント付いてないのかが不思議。でも迷うね、お気に入りいれるのが勿体無い。2ch本スレで誰か言っただけ、誰にも教えたくないとかそういう気持ちがある。行間まったく空いてなかったりするんで、人によっってはとっつき辛いかも。

わたしはスルスル読めたんだけどね。

異世界といっても作者さんのオリジナリティが溢れていて、かなり独特です。

キャラの魅力が高いので、読むのに苦痛はありません。

落日く読みたいんで、本日はここまで。

第二回スコップ

はい、わたしは実は小説を読むのが大嫌いです。（笑）
書くのは好きですけどね。

それでもまあ、必要最低限くらいはと学生時代はムリして読んだわけです。読み易い文章なら、集中して一気に読んでしまえるけれども、やっぱり文章って個人の感性ってのがあると思うんです。

プロの作品は大概読めたんですけどアマチュアは……ムリ、ダメ、ゴメン、て感じが多かった。さすがに話題に乗るほどの、宮部みゆきだとか東野圭吾だとか松本清張、横溝正史なんかはスラスラ読めるんだけどもね。堅い文体、ライトな文体は関係ないですよ、読み易いかムリゴメンかはなんかの基準がある。

論語とか、相対性理論とか、普通に読めるわけですから。
何が、分けるんだらうか……。

では本題。本日は60ページ目から掘ってみましたー。

わたくし、題名もあらすじも読まずにいきなり本文行きます。半分読んで判定。

あ、申し訳ないけど短編及び1ページだけ作品は今回触れずにパスしております。

本日の作目

『ピユアダーク』

文章的に、まごついたり奇妙になったり、ちょっと引つかかる部分が多いわけですが。

それ以上にストーリーの進め方が上手です。引つかり、引つかり、読みにくいギリギリなんだけど、話の続きが気になって読み進めてしまう。そして三話目から格段に文章が進化するので安心。

現代の、たぶんアメリカな舞台でのオカルトファンタジー。完結してるのはいい。

後でじっくり最後まで読んでみる。

……そうか、解かってきた。三人称かどうか、だ。

三人称の方がわたしは馴染むらしい。

んでは二作目

『キリシア大陸物語』

題名省略してますがまあ問題ないでしょ。昨日に続き、文章ばかり、内容申し分なし、な作品に巡り合えました。ただ、完全に内政。派手に暴れるシーンとかは今後も期待出来るかどうか怪しい、というよりそういう系統の話ではない。けど、小難しい政治駆け引きでニヨニヨ。バックボーンがしっかりしていると、書くものがこんだけ違う、という感じで、自身のなんちゃって内政をちょっと恥じてしまった。

んでは、色々と更新もきてるんで本日もこれにて御免。

第三回スコップ・番外

フェザー文庫が始動、ということなので。

今回は『小説家になろうで宝石を探す』について。

まず、作者さん？ いや、この場合スカウトのじーさん、と呼ばせてもらおうか。（笑）

やっぱり何度も人生で勝負してきただけあって、目の付け所がいいね。

わたしは、世にいう新人賞とかのシステムはもう古臭くて、出版社も本気で生き残りを考えるなら、あんなもんを主力に据えるのはそろそろ考えた方がいい、とか思ってるクチだ。

マトモに作品読むこともできない状態でパンクしてるもんだから、アルバイトに任せて第一次選考。

アルバイト君はろくすっぽ読むことをせず、チラ見だけでポイポイと投稿作を捨てる。

キャッチコピーの才能があつて、運が良かった作品だけが通過する。

これって、なろうのランキングシステムよりも酷いんだけど、気付いてないのか？

たった一度しかフィルター通してないんだよ。

なろうのランキングは、まだ何万回と、読者の数だけ、連載期間でサイトに載ってる期間中はずーっとフィルターが掛かって選別作業が延々続いている状態なんだ。

それでもランキングに載ってくる作品には首をかしげるモノがあったりするのに、たったの一回、それもアルバイトのチラ見でほんだけの良作が振り落とされるかなんて、想像するより簡単だ。

現に、ハリーポッターの作者が諦めずに何社もの持ち込みをしなかつたら、どうなってた？

あの作品も、映画も、ブームも、なかったんだ。

そんなズサンなシステムに成り果てているから、だから、電撃とかアルファポリスなんかネットに出てきたんだろう。死活問題だから。他の出版社は様子見つてところだろうな、今。

電子書店パピルスだとか、どんどん、形式を変えてきてる。

このまま行けば、紙媒体の本よりもネットで探す方が良作が見つかる、なんて状況が出来上がってしまうからさ。

アルファはなろう式のフィルター掛けておいて、そこで浮いてきた作品を、今度はプロの確かな目で見て判断するわけだからさ、プロが時流を見誤らない限りはコケようがない。

精鋭の中からチヨイスする権利は自分らで持つてて、あとはブームとかを見極めて売れる要素のあるモノを送り出す、巧い手だわ。パピルスはさらに上に行くかも知れん。

そこへ、本物のプロ作家たちを抱きこんで競争させてるわけだからさ。

あそこまでキツくなると、逆にわたしなんかは行きたくなくなるけどな。

アメブロもそうだよな。

それらに比べると、スカウトじーさんはまだ良心的というか、あざとさが足りなくて心配になる。

他のトコがやってんのなんて、一つのツボに虫を山ほど放り込んで、生き残ったのを……で感じて、蟲毒の壺みたいな気持ち悪いビジネス臭すら漂ってるもんな。

ビジネスを前面に出せば、どうしたってそういう扱いになるから仕方ないんだろうけど。

『小説家になろうで宝石をさがす』は、ランキング合わないわたしなんぞはレビュー誌替わりに読んでいたりする。やっぱプロが金儲けを念頭に入れて読んでるだけに、基準はしっかりしてると思うわ。

真似事みたいな事を始めてみたけど、仕事として本腰入れてる人には適わんよ。

レビューしようと思って掘ってみたらよく分かんと思うんだが、紹介の基準がブレてくるもの。甘くなってしまう。

そういうブレが少ない点で、宝石は評価する。

これからも良作がどんどん紹介される事を期待したいね、お気に入り増やしたいんだー。なんせわたしは小説読むのが嫌いだからさ、読める話を探すだけでも一苦労だからして。(笑)

最後に。

作家を目指す人はさ。ここはネットなんだ、という事をもっと強く意識した方がいいよ。

ネット小説の一番の強みは、いつでも簡単に改訂出来てしまえる、という事に尽きるんだから。どんどん読み込んで、どんどん書いて、どんどん過去読み返して、どんどん身悶えて改訂作業して、どんどん書き換えてきやいいのさー。

そうすりゃいつかは最高の出来栄になるよ。(笑)

わたしなんか、思いつくネタはとりあえず何ページか書いて、メモ代わりになるうに上げてるよー。(笑)

追記：

……紹介作が消されるとか。びっくりした、なう。

(運営、仕事してたんだ……てつきり黙認の構えかと思ってたー。)

しかし、これでまたランキングがなるっ小説オンリーになるよー
な予感……

番外のついで

思いがけずご本人降臨、ということでご予定を変更して昨日の続きを。

フェザー文庫がアマゾンで紹介始まったことだしね。

まずはランキング。

感想にもちよろつと書いたけど、恣意的な操作をしないランキングってのは、だいたい似たような物ばかりになってしまふものだ。

食い物に変換してみれば分かり易い。

『グルメランキング、こちらの料理が美味い!』というのがあったとする、読者の投票だけで選ぶとする、候補の選出も読者頼みとする。

するとだ、世の中、大筋の流行りというものがどんなジャンルにも必ず存在して、それはマジョリティというかで、大多数が基準値として持っているものだが。これが働いてしまう。

その時はたまたま、ボンゴレパスタが無意識的流行だったとする!

そしたらランキングは、○×店のボンゴレだの横浜　のボンゴレだの、とにかくボンゴレパスタで埋め尽くされる。一つ一つは多少の違いもあるだろう、しかし、料理と言ってボンゴレしか出てこないのかよ、とツツコミを入れたくなる程度にはボンゴレに埋め尽くされる。

なぜそんな事が起きるかと言えば、選出する人間があまりに多い事とボンゴレの種類があまりに多様化しているせいだ。だが、全体を見た時にはボンゴレで埋め尽くされて、もはやボンゴレランキングにしか見えない、という状況が作り出される。

ランキングを創り出す時にはそういう力学が働くわけだが、これが利用者側にマッチするかと言えば、まったくマッチなんぞしない。ビジネス的にもユーザー的にも、クソランキングの出来上がりだ。

ビジネスとして見る。

ボンゴレ食いたい人間以外は用なしなランキングである、しかも、看板に偽りあり。

ボンゴレ食いたい人間なんて、美味しい料理食いたいと言ってる人間のうちの、さて何パーセントか？

なにより、美味しい料理食いたい人間の「全てが投票したわけじゃない」のが痛い。沈黙層がいる。そして普通は、声を上げる層よりサイレント・マジョリテイの方が桁違いに多い。

ユーザーとして見る。

選択の幅がまったくくない。

ボンゴレしかないんだから流行の傾向も測れない。次の流行を推測できない。

上位はボンゴレに埋められ、下位は一票二票の争いで、個人的趣向か、多くの支持があるのかが判別出来ない。

ボンゴレに埋められているから、少数得票でさえ出ている数自体が少なく、他の料理という選択肢はほとんどない。ボンゴレの中に一品二品他の料理名があるだけだ。

なにより問題なのは、ランキングが本来の機能を果たさないということだ。

ボンゴレに埋め尽くされたランキングにボンゴレ以外の料理が出たら、流行関係なく飛びぬけて美味しい料理ということだ。本来、ユーザーが求めるものはそれだったわけだ。

ボンゴレという基準値の流行をも超える美味しい料理のランキングを求めている。

「料理全般」のカテゴリーでなく、ボンゴレのみに埋まっているから、ボンゴレ以外を求める層がボンゴレ以外を熱望するというパラドックスが生まれてくる。

紹介者だけが満足するどーしよーもねークソランキングということだ。

だが、ビジネス的な力学が働く。
ランキングに乗ったボンゴレにしたら、「流行」ということをどんどん利用したい。

流行だから、なんぞという実態のない理由でボンゴレを食う人間が増えるのだ。

なぜランキングを観ようと思ったのか、最初の理由は打ち消され、いつのまにか流行のボンゴレで美味しい店はどこかな、という風に誤魔化される。

それがブームの正体。

なるうランキングはそうやって誤魔化された大衆が、流行のチーレムで巧い小説はどれかな、になっている。流行というものは、ランキングをぱつと見た瞬間、チーレムだらけだから「ああ、チーレム流行なんだな」と判断しただけで、それを自分が求めていると錯覚を起こしたに過ぎない。

追記：

ふと思った。

電話で番組内ランキングみたいなのをやる場合でも、時間制限を設けるよね。あれはなんでだろう？と思って考えてみたら、なるう

の場合は延々と演算繰り返してるわけで、それと同じ状況になるとランキングの多様性が無くなるという事だろうか。

無意識流行の母数が多い上に、名前が出てくるボンゴレ店の実力で信者数そのものがすでに母数の部分で他の料理の上を行くし、他の料理を思い出す前に実力派ボンゴレの名にかき消されるわな。

あ、なんか纏まらない。文章にならなくて申し訳ない、文章書きのくせにー。お恥ずかしいレベル。

第四回スコップ

さてお待ちかね、第四回スコップです。（誰が待ってる……）
今回は80ページ目から掘ってみましたー。なんかもう、自分の強運が怖いわっ！

いきなり80ページに連続して2作。てゆーか、普通にゴロゴロ埋まってるだろ、コレ。
なんかだんだん、そんな気がしてきたわ。

『大事なあなた』

まず、文章が秀逸。なんとゆーか、基本。ものすごく参考になるんで、作家志望なら読むべし。

内容は、シヨタ好きはGO！

ものすごくいい性格のシヨタが大好きなおねーさんの為にあれこれ。そついう話。

設定的には、ちょっと都合っぽい気もするだろうが、ちゃんとそれらしい解釈を付けてあるんで、そんじょそこらのご都合設定とは違う。いわゆるひとつの天才児、とフォロー解釈を脳内補完するだけでオケ。嫌うひとは少ないとさえ思える良作。しかも完結済み。現時点お気に入り8pt、あれ？ さっきまでは0だった……は？（未評価で掘ってるからお気に入りにはあつたりするのか、なる、気をつけよう）

『ナイトキングの国』

まずなにより、……キーワードなし。うう、これは迷う、紹介しているものかどうか。

調べてみて、検索除外処置はされてないんで大丈夫だろうと……

思えばわたしも最初はキーワード完全無視だったもんなー、なんて思いつつ紹介。

文章は時々、表現とゆーか諷的な勘違いで「ん？」とか思う程度の引っかけりはあるけども、問題なくスムーズに読めます。

ストーリーの方は、途中でもどかしくなっただの文読み飛ばしたくなるくらい面白い。続きが気になって、チェックしなきゃなのに普通の感じで読んでしまった。

どーしても引っかけたるだろう点として、ファンタジー世界に「電話」なる文字が出てきてしまいますが……そんなくらは目を瞑ってくれ！ ワンピースにも出てたじゃないか！

と、いうわけで本日も2作掘り出して終了ー！。

第五回スコップ

はい、第五回スコップ、スコップ。

本日は200ページ目から掘り下げてきた。

何作か読んでいて、気になったというか、切った基準のひとつを書いておこう。

設定の矛盾だ。

例えば、それまで離れ離れに住んでいた家族と暮らすことになった、それはいい。でも、対象者がとくに成人済ませたい大人の場合、それも男性の場合はそのまま独立して、時々遊びに来るよ、と誤魔化す場面だろ？

それがリアリティというもので、そこをご都合で一緒に暮らしてしまう設定の作品は悪いが切らせてもらったよ、今回。

都度の場面、一般的にはどうなるか？を常に頭に入れて書くことが出来てない作者さんに、今回はけっこう当たったような気がする。(て、今までがスムーズに掘削出来ただけかなー)

少し考えれば分かるようなご都合矛盾つてのは、さすがに紹介作にするわけにいかない。前に紹介した電話とは違うんだよ、展開上、電話が必要になったが電話を回避すると相当の技量が要求される、それがムリだったんだらうと分かるからね。たかが小道具一つのコトだから目を瞑ってくれ、とお願いした。

ちょっとズレた思考を持った人が主人公の場合は、その行動がズレてるが故に周囲は普通通りの展開にはならないはずなんだよ、で、周囲もズレてるならさらに普通とは違う、それ相応の展開にならないと。それが構成というか、計算。

主人公の一挙手一投足、一つの台詞で、次にどう返ってくるか、その計算をする。池に石を投げたら、波紋が広がり、どこで跳ね返

って波紋同士がどこで重なり合うのか……それが『小説を書く』ということ。投げる石が多かったり、特殊ならば、その分だけ計算は複雑になる。

それが、本来のSFは難しいということだったり、歴史や戦記は大変だったりすること。特殊な形状という要素を計算式に入れなくちゃいけないから。

んで、3回、3回番外でも云ったけども、「なるう」では受けない種類を掘り出してるわけですが、わりと掘ればゴロゴロ出てくる状態なわけだ。ゼロポイント地層には沢山埋まっている。

たぶん、なるう作品を読みに来る時点で、読者の方でも小学生向け漫画とか、そんなんを読む心積もりしか持っていないだろう。

ゲームをお薦めした時に、知人が言ってた言葉だが、「^{ゲーム}娯楽でまで、頭使いたくない。」と、そういう意味なんだと思う。で、なるうはチーレムトリップの本棚だ、と。

良い話を書けば、ロコミで上に上がるのかとか考えたけど、なるうの読者が押し上げたわけではないようだ。アルカディアとか、そっち方面で噂になって、普段離れてる層とか、評価もお気に入りも付けない層が目止めて、ポイント入って上がるんだろう。

で、上がってきたら、初めて、普段テンプレしか読まない層が読んで、さらに底上げ……は、しないな、連中は層がまるで違うから読んでも理解出来ない。面白いと感じないだろう。半数以上は読むことが出来なくてバツク、半数は気に入って評価、というところかな。

以前、会社の先輩が、小説を読み始めようと思うから、面白いの貸して、と言ってきた事があった。

「新井素子」を貸してあげた。簡単だろ？ 初心者にはうってつけの分かり易さだろ？ 自信满满で、小説好きが一人増えたな、とか、次は何を貸してあげようかな、とか思っておった。マヌケにも。

……「ごめ〜ん、難しくて、わかんなかった。」だってよ。
それ以来、わたしは全員が全員、小説読めるもんだなんて幻想は抱いていない。

人の読解力には差異があるわけでさ、文章の難解さでギブする人だけでなく、内容の複雑さでもギブしちまうっつことさ。「まどかマジカ」は傑作と思うが、なるう読者に受けは悪かる？ 理解出来んということだ。「シユタインズ・ゲート」もな。

理解は出来るんだろつが、はなからそれを求めてなるうには来ていない、という事かな？

よく解からないねー。

だから、逆にいうなら、中途半端に点数入っている作品よりも、いつそゼロポイントが宝の山だったりする。だから、作者さんたちも、お気に入り数がどーのこーのでは、悩む必要まるでなしっ！（笑）
てなわけで、本日のスコップ成果。

『八百万のクチ』

面白い！ あ、いや、まずは文章の方を。

現代文学やりたい作家さんはぜひ参考までに読んでください、て感じのクオリティ。

テンポもいいし、誤字もほとんど見当たらない（一箇所しか見つけてない）、引っかかるよーな言い回しの妙な部分だとか、文章のちぐはぐもない。

そして内容、まだ2ページしか書かれてないけど、そうとう面白い。

2ページ、相当量で文字がぎゅちり詰まってるけど、主人公がど

んなけダメ男かっていう説明と、「カウンセラーになってください、
」と言われるまでで費やしているので、進行は少々遅めか。（いや、
一般的な小説ってこんなテンポだから、ライトノベルとして読むな
よ、という感じ）

で、このダメダメ男がどう変化してくのか、という期待をすごく
抱かせてくれる。人によつては、そのダメっぷりが我が身のこと
でブラウザバックするかも知れんけど。そんなくらいダメさがリアル。
「つづき、まだー？」ワケテカ。

『マジメかつ！ 笑道わらいのみち 』

文章は文句無く、読ませる。背景描写のうち、どういう建物があ
りどういう概観で、とかいう部分があり書かれていないけど、こ
の話の場合は不要なので、わざとなのかうっかりなのかの判別は付
かない。

けど、巧いなー。背景はしよりつつ読ませる文章、という事で一
見の価値あり。

そして内容、話の進め方もテンポも引きもいい。今のところはオ
ーデイションを受けてきたよ、という部分で終わってるけど、割と
長いはずなのにするすると読めてしまった。

ただ、内容は人を選ぶ。かなり資料を当たっているか、業界に繋
がりのある人かも知れないので、ソツチ系統に興味のある人は面白
いだろうと思う。

専門知識あれば武器になる、の良い見本なので作家希望の方は勉
強になる。

わたしは理想主義者ではないのでね。人間を良いものとも思わないし、全ての人が平等に同じ程度に頭が良いとも思っていない。小説を書くことと思うことが、才能の発露だとも、もちろん、思っていない。

第六回スコップ・また番外

今回は、なろう作品の紹介はなしです。

商業作品、それも大御所出したので並べるのはちょっと。(汗)

森村誠一著、「黒いファントム」を今さらで読み始めました。

家にあつたのになんとなく敬遠していたんだけど、軍関係の話を考えているので、参考になるかと思って読み始めて。はつきり言って、偏頭痛との闘いのが激しくて内容はイマイチ入ってません。

ちよつと集中するとズツキンズツキン、地獄だ、地獄っ！ だが負けん！！

(病院へ行けとな？ 病院は痛いし怖いから嫌だ。放つときゃ治るからいいんだよ。)

で、自衛隊を扱ってるんだけど……もによもによする。

今でこそ、震災関係とかでどれだけ彼らが人間味に満ちた、本当に普通の人であるかは森村氏ほどの作家ともなれば分かることだと思っただけど、当時はやっぱり風当たりが強かったわけさ。

わたしは、実際、『性悪説』に近い立場を取って物事を見ているんで、世の中に善人と悪人が居るとかいう考え方は嫌いなんだよね。すべからく、人は『愚か』なだけであって、その程度に差があるだけだと思っているから。

だから、軍人が型に嵌ってとんでもない事をやらかす、作品中に表わされるメカニズムについても、疑問符だらけでもニヨモニヨしつ放しだ。

政治家でも官僚でも富豪でも幕僚でも、完全に利己的で自分のこ

としか考えてないような人間は、そもそもそんな地位には付けられないと思うんだ。

政治家のタイムテーブルを、何かの番組で知ったけど、あれだけハードなスケジュールを、私利私欲の為だけにこなせるなんて思わないよ。

官僚にしたって、大富豪にしたって、その地位にはそれに見合うだけのハードでクソ重たい責務というものが必ず付いて回るだろうし、欲や金にはそれに耐えうるだけの魅力はさすがにないと思うんだ。

信念を支えるものは、理想であろうし、使命であろうし、だからこそ、とんでもない間違いだっけ起こしてしまうのだと思うんだ。

核弾頭のボタンを押すガッツを見せる、だとかいうね。(これは「パイナップルアーミー」ネタ)

愚かだから、としか言いようがない決断だ。

宗教は、人間を生物層の中でもっとも優れた存在に位置付けている。

でもさ、普通、自分を賢いと思っている者ほど馬鹿だよな。

人間というのは、この地球上のすべての生物の中で、もっとも出来が悪いんだろうと思うんだ。

神様は人間を愛している。

それは、あまりにも愚かで、馬鹿で、どうしようもない生命に対して、哀れんでの愛だと思っ。

自分を「良い物」と思うことほど、哀れみを誘う行為はないと感じるよ。滑稽だ。

自分を知らないものは、夢を見る。

愚かな夢だ。

愚か者は愚かなりに、同じく愚かな同胞達に、涙を流せばいいんだよ。

優しい想いで見守れるように、神様と同じ視点に立てるように。

さて、久しぶりに「なろう」じゃない小説を読んだわけだけでもわたしは最近、思い悩んでいることがあるんだ。

『難しい内容を、平たく簡単な文章を用いて、誰にでも分かるように書きたい』

それを目指して書いてきたのだけど、どうやらそれは理想論で、実現は不可能な類なのではないか、と思い始めているんだ。

ロジックがある。

小説を読むには、読解力という力が必要だけど、それは個人差がとて大きい。

難しい内容といっても、その内容自体を理解するにも個人差があるという事に気付いてしまった。

どんなに難しい内容でも、言葉を尽くせば誰にでも理解は可能だと、そうであるなら、仏教の大乗仏教と小乗仏教の区別は付けられないわけだよ。

多くの宗教が、入門編と深く勉強した後に教える真の経典とに分けはしないんだよ。

簡単な物語しか読めない人に、難解な物語をいくら簡単な言葉を使っても説明しても分かることはない。

そして、簡単な文章を使うと、難解な物語を普通に理解出来る者にとっては、冗長に過ぎて、幼稚に過ぎて、有り難味がなくなってしまうんだ。

小説を投稿する際に、もっとも大切なのは、読者層をしっかりと見極めることだ、と一番最初に読んだ市販の指南書には書かれていた。

「そんな事はない、」と反発していたが、どうやら、わたしなどが考えるよりも遙か以前から、そういう試みは行われて、その結果、

『読者を選べ』という悲しい結果が確定で現れたのだろう。すべての読者に読める小説などは、書けない。棲み分けというものは、生物層と同じに、小説界にも厳然と存在するんだね。

だから、もう、簡単な文章で分かり易く書くということは止めた。付いてきてくれる読者だけに向けて書く。

Webのいいところは、置いておきさえすれば、目に止まるという事だよ。縁さえあれば。

昔、ファンだと言ってくれた人が、同人の即売会でこう言った。

「やっと見つけました、シーラカンスを探すくらいに大変でしたよ」

これはこれで、誉れだと思っているからね。縁があるなら、出逢うだろう。

縁のあった人だけ、読んでくれればいい。

シーラカンスは、深海の底へ沈んでゆったりと泳いでいようと思

出逢う価値のある作品を書けるように努力する。

(P S : 頭痛に敗北、病院でお薬もらってきました……)

第七回スコップ

六回の際に、簡単な文章で小説書くのは止める、と宣言したけども、だからと言って難解な文章を書くとかいうわけじゃないよ。

必要以上に平坦にしたり、文章を明るくテンポアップしたり、行間を空けてみたり、軽いノリで読める空気にしたたり、スカッと爽快感を出すように勤めたり、流行りの素材を無理に扱ったり、……そういう努力を放棄する、と言ってるだけだから。

要するに、読者に合わせて書くのを止める、と言っただけね。

それは自分を殺して書くということだからさ。
今まですごく迷っていたんでね。

ランキングに乗りたいと思うのと、お気に入り読者が増えて欲しいと思うのと、六回で言ったように書きたいものをどう書くか、という事は繋がる。

「なるう」や「Web小説」の主流読者層に合わない作風の作家さんは、もう諦めたがいいよ。(苦笑)

ネット読者なんて、小説読む層の何%ほども居ないんだからさ。
ここの読者に受けられないという事が、作家としての価値、作品に対する価値だとは思いなさんな。ほんの数%には合わなかったというだけのことだから。

住むべき場所が違うんだらうねー。

ネットを普通に利用する、普通の人は、忙しいんだから噂になって初めて読みに来る。

その証拠に、なるうの作家さんだって、多くの人は「書き専」でお気に入りなんて付けてない人が多いじゃないか。沈黙のマジョリテイという層がある、なるうだったら数万単位で。

彼らは小説を読まないわけじゃない、「なるう小説」を読まない

だけだろう？

わたしも、ランキングや更新欄の題名を目に入れないようにしただけで、かなり作風が安定したよ。

どうも今まで、思うように書けなくてイライラしてたんだが、知らず知らずで引き摺られていたらしいね。自分のカラーは社会派とかハードボイルド系だから、なるうとは真逆だし、顕著だったんだと思う。

他の、特になろう主流の題名やあらすじを目に入れなくなっただけで、かつての文章に近付けている。

こればかりは、『好み』としか言いようがないわけで、六回でも言った『棲み分け』によるところなんだから、わたしが場違いなんだよね。（苦笑）

まあ、ここのエディタがとっても使いやすくて居座ってるだけなんだ。

いずれ家庭の事情が解決して、ホームページを再開出来るようになるまでの辛抱だね。（笑）

とか言いつつ、思いの外居心地がいいもんで、そのまま居座る予感もひしひしだけど。

事情は異なるにせよ、わたしと同種の匂いがする作家さんを、これからもボチボチ掘り起こしていきたいとは思っておりますんで、よろしく。

さて、作品介绍。

『きつと、それすらも』

読み出した時に、不思議な感覚にまず引き込まれた。

この作品、実はoptじゃないです。（苦笑）

未評価ではあるけれど、お気に入りには付いていた模様。 見てる人

は見てるんだね、と。

なるうでは珍しい感じの作品なので、ぜひに、と思って紹介。

文章もこれといって問題点なし。ストーリーも文句なし。

一人称をこれほど効果的に使えるというのは、見習いたいものだわ。

なんともジワジワとクル感じで、得体の知れない物語。なのにはのぼのパートがあって、とにかく妙な雰囲気の商品。

今回はちょっと歴史ヒストリア観てて時間無くなったんでこれにて終了。

第八回スコップ

2chのある発言について。

触れるな、とスレでは言われる人なんだけどもね。

お題スレが馴れ合いで、評価点を入れるな、という主張も解らなくはないんだ。

誰ともツルんでない作家さんとスタートラインが違ってしまつのが不公平だ、という主張は確かに間違いじゃないね。けども、スターラインが公平であるべきとか思ってるのは間違いだよ。

いや、理想論で実現は不可能だ。遂行した人が馬鹿を見るだけのことだ。悲しいけどね。

例えば、アルカディアとか自サイトとか紹介サイトでの宣伝とか、CM効果というのはネットじゃ馬鹿にならないからさ。それ以上に強力なある種の効果は確かにある。

アルカディアとか自サイトとかは、立派に自助努力って奴だろう。それと同じで責められる謂れはないね。

2chに晒すことが宣伝になるってのは、解ってることだし、スレにも効果的方法の一つとして、「余所で宣伝する」と書かれているじゃないか。

ただ、2ch晒しは、批評がセットで付いてきますよ、という事で改訂する意志があることが前提条件だから、晒しておきながら何一つ変えないというヤロウはその後にはボロクソに叩かれても文句言うな。

同様に、お題スレは評価厳しいし、ptだって付かない事の方が多いくらいだよ。

あくまで、「読んでもらえる機会が増える」というだけだからな。

お題に沿って作品が書けるなら、書いて持ってくればいいのに、と思つよ。

読んでもらいたいと思うなら、どんな機会も進んで掴みに行くべきだよ。アルカディアにも晒して、自サイトやMixiも利用して、あらゆる手を尽くせばいい。

Mixiにもかなり大きなコミュニティがあるから、利用しない手はないよ。

宣伝しないと、「なるう」だけで勝負したって、まず読んでなど貰えない。

不公平なのは、人の目に止まる機会の不均衡ってヤツだ。

文句言っただって直りやしないんだから、それより本気で読んでほしいと思っただけなら、せつせと宣伝した方がなんぼか前向きだ。

読んでほしい、仲間がほしい、と思うのなら。その上にお題で作品作れるなら、うってつけの場所があるから、お題スレにおいて、と言ってる。

あ、ランキングに乗るほどのブースト効果はないからな、先に言うておく。(笑)

中には、そういう不正ルールがある真の馴れ合いグループもあるよ。うだが、お題スレは違うから。

等しく批評はする、petは良作なら付く、書きなれた作者が多いから、ハズレ作品は少ない。

まあ、弊害があるとするなら、ハズレが少ないって点か。

スレに晒された作品読むだけで満足しちゃえるんだよね、最近。掘り出すのも大変だし、ランキング作ははなからストライクゾーンを大きく外したボークばっかだし。

お題スレは自分好みの作者が集まって、いわば、似た者同士の集団になってるから、仕方ないね。

自分の居やすい棲家をまず探せ。(笑)

ランキング作品に合わないんなら、仕方ないことだ。馴れ合いは。

大企業の中でも、部門部門で全部違うもんだろう、それと同じ。なるうというサイトに集まる中でもいろんな派閥があつていい。むしろ、派閥が明確に表れないと困る。

200文字の集団とか、他のお題集団とか、2chお題スレ集団、今のところ明確に表れてるのはこの3つくらいだが、もっと細分化した方が利用者には便利になるんだよ。

「なるう」の解体だ。

それぞれが自分の好みの集団をチェックするだけで良くなる、余計なモンを読まされる無駄は省かれるべきだろう？ 図書館だって傾向別にジャンル分けつてのはなされてるんだ、本来、ジャンル別ランキングがその役割を果たすはずだったけど、それをぶち壊されてんだから、代わるシステムが必然で表れただけなんだ。

いや、ジャンルの違いでもなくつて、作風の違いつてヤツか。

ライトノベルと、文学系、200文字は超ショートになるのか？

軽く読みたい人にはいいだろうね。

厳選集とか出してくれんかな、とかは常々思うが。（そのうちお勧め200とかでやろうかな）

設定の矛盾やら地の文が疎かだともう読めない、という人向きの作品と、すっきり爽快感があるなら、細かいところは別に気にしない、という人向きの作品は違うし、そういう人等が集団化してくのも仕方ないということだ。ランキングが片方に寄ってしまったら。ら。

主流派の、すっきり爽快感で細かいことは無視派には、今のなるうは便利だろう。それ以外の派閥が自分らに便利ないように分離し始めただけのことだよ。

本スレの晒しまとめWikiだとか、ね。別に問題はないさ、なるうのランキングはこれまで以上にすっきり爽快派ばかりになるだろうが、正しく棲み分けが成されるだろうよ。

んでは、今週見つけたO p t作品。

『ユグドラシステム』

ほとんど空行がない、ということです。いぶん損をしているなあという作品。

能力による戦闘シーンが、なんちゃって戦闘と違って、かなり迫力あるよ、うん。

ストーリーも気を引くものだし、引きが上手いなー、と感心しながら一気に読了。

完結済みなので、読んでみてほしい。

今回から題名変えましたー。なかなか発掘作業に掛かれなくなっただんで。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1110x/>

日曜日はスコップ日和（未評価作品をスコップで掘る）

2011年10月20日08時18分発行